



国際ロータリー 第2620地区 2023-2024 年度ガバナー

中村 皇積

2023/09 Governor's Monthly Letter

—【考える人】を増やす

常に進化していく国際ロータリーの潮流は、ロータリーの友「エバンストン便り」でキャッチすることができます。8月号では、「研修 (Training)」から「ラーニング (Learning) への転換が発信されました。従来のクラブ研修リーダーの呼称もクラブラーニングファシリテーターに変更されました。

研修 (Training) という言葉は、これを施す側からの目線であり、その内容・方法も自然とそうなりますね。

対して、ラーニングは参加者中心の目線となります。その方法、内容も参加者が主体的に学び取っていくお手伝いをするものとなります。公教育の現場でもそのような傾向にあると聞いております。ただ私は、これを劇的な転換ではなく、潮流を確認したものと整理しています。

甲府シティRCでの会長幹事会にてクラブラーニングファシリテーターの役割についてお話する機会がありました。

「ベテラン会員にお務めいただくクラブが多いですが、それは最新の情報、知識を伝授することに主眼があるのではないと整理しております。知っていることに越したことはないが、そもそも私を含めて、私たちは知識の宝庫ではありません。長いロータリーライフ、社会・事業生活にて涵養された果実や体験を紹介し、これからのクラブを担う会員様に考えていただくこと、より興味を持っていただくことが期待されているのだと思います」と申したところ、当クラブのシニアリーダーから「ちゃんと整理しているね」とお言葉をいただき嬉しく思いました。

これは、リーダーシップにとどまらず、活動の基盤である例会や5大奉仕部門に整理される奉仕にも落とし込んでいくことが期待されています。

先日は静岡ローターアクトクラブ創立50周年式典にて、講師との質疑応答の機会に恵まれました。

「みんなをやる気にさせるコツや視点は何か?」と尋ねたところ、クラブを蘇らせた実績をお持ちの講師、片桐さまから「考える人を増やすこと。その環境づくり」とご示唆いただきました。

一人が資料を作り、説明して動いてもらうよりも、みんなで町を歩き、何ができるか、必要とされているかを考えることにより、良いアイデアが出るし参加意欲もわく。また、意見の相違も協調的に整うとのことでした。皆さまはどうお感じになりますか?



地区幹事のつぶやき

ガバナー公式訪問も半分以上のクラブに訪問させて頂きました。素晴らしい奉仕活動に地区幹事も皆さまの為に尽力せねばと改めて思う次第です。また地区大会の準備も着々と進んでおります、アクトシティ浜松にて皆さまとお会いできる事を楽しみにしております。

地区幹事 青木悠樹



公式訪問

の一コマ

一つとして同じクラブはありません！
ほんの一部をご紹介します

駿河 R C

静岡県庁にお勤めの山本泰洋さん(職業分類:公務)が所属されています。
月3回の例会は昼2回、夜1回です。昼例会では山本さんは休憩時間を利用しオンラインにて参加しています。当然ながら例会場で食事をとりませんので会費は別設定になっています。誰でもライフスタイルに合わせてロータリー活動に参加できる工夫をとっているクラブです。氏の職業分類はクラブの【アンテナ】を広げています。
ロータリーは色々な人が【交ざる】ことにより、予想以上の化学反応が起こる場です。

沼津 R C

3年度続けて女性が会長をお勤めになります。女性ならではのきめ細かなクラブ運営を感じました。また、【古着 de ワクチン】では提唱する二つのインターアクトクラブへも呼びかけてくださり、地元の報道機関が大きく取り上げました。

甲府南 R C

クラブリーダーシッププラン(CLP)を上手に活用しているクラブです。会長エレクトを会員増強担当理事にして着実に成果を上げています。会長エレクトを活用するクラブはリーダーシップの継続が図られ、毎年一歩前に、一歩前に進みます。会長エレクトがどの分野を担当するかはクラブで自由に、今一番力を入れたいところを決めていきます。奉仕プロジェクト部門を担当いただくことにより、既存事業の棚卸しと地域のニーズ調査をすることもできます。

市川大門 R C

昨年度実に45%の会員増を果たしたクラブ。徹底的な候補者リストアップと一丸となった勧誘のほか、増強の決め手は増強活動を若手に任せきりにせず、クラブの柱であるベテラン会員が先頭に立ち鼓舞したことにありました。神明の花火大会に立ち会えず残念！

清水 R C

4年前に訪問した際はトラディショナルな印象でしたが、ガラリと雰囲気が変わっていてびっくり!事業計画書はリンクを張り巡らせたPDF、会長幹事会ではモニターを通じて各活動をご紹介します。例会外で中村克海幹事を中心に Rotary Night's を開催していて私も参加しました。美味しい料理屋さんでどなたでも軽装で参加可能。職業や社会貢献、世相、ざっくばらんな会話に花が咲きます。複数のRCの会員さん、他の奉仕団体の会員さん、一般の方も参加されています。その場での勧誘はNGなところがミンですね!

山梨 R C

41回の例会は昼30回、夜5回、朝6回。ベテラン会員の皆さまにも温かい配慮がなされると敬服いたしました。公務員特別職(市長)の会員も在籍し、行政だけでは応えきれない地域のニーズをクラブに届けてくれます。後継指定会員制度(親子に限らない)を取り入れ着実に成果を上げています。



各種報告事項は地区HPをご覧ください

スマートフォンのカメラでQRコードを読み取ってアクセスできます

国際ロータリー 2620 地区会員数 ※ 2023 年 7 月現在

	期首会員数	7月1日入会者数 含会員数	当月末会員数	当月増	当月減	通算増	通算減	女性会員数
74 クラブ	2820	2826	2870	57	7	57	7	247



世界米山学友による再開 IN 関東



「米山学友による世界大会『再会 in 関東』に参加して」

第1回は熊本、第2回はモンゴルで開催された米山学友による世界大会。これまでは有志参加となっていましたが、アクセス可能なつば市で行われる第3回大会に、現役奨学生も是非共に参加をしたいと計画致しました。

米山学友による世界大会とは、2年に一度行われる懇親イベントで、学友同士、また、学友とロータリアンが親睦を深めるとともに、世界平和と国際親善への認識を新たにしながら、被災地への支援活動や地域の活性化を行う、というものです。

4年ぶり3回目の今回のテーマは「再会」。

米山学友、米山奨学生、ロータリアンが「お帰り、ただいま、久しぶり」と笑顔で「再会」を喜び合うイベントにしたいと実行委員会が名付けたものです。

この「米山学友による世界大会」への参加を通じて、私は大変に貴重な経験を得ることができました。学友・奨学生たちと共にその場に立ち会い、彼らの成長と努力を間近で見る機会は、感動的かつ重要なものでした。本大会の中で印象的な瞬間は数多くありましたが、特に心に残ったのは各国学友会の代表が行ったパネルディスカッションでした。韓国学友会代表の黄セミさんが非常に美しい日本語で次のように語ったエピソードに私は涙を止めることができませんでした。

「日本の植民地時代に生まれ、創氏改名政策で日本名を名乗り、日本に対して反感を抱いていた父の元で育ちました。しかし、私が日本へ留学することを決めた際、父は『お父さんのように過去に縛られず、そしてお父さんから言われてきた先入観を捨てて、もっと広い世界を見てほしい』とむしろ日本への留学を勧めた。」と。黄さんは現在国際会議の通訳者として活躍していますが、彼女の子供たちはアニメなどを通じて日本文化に親しんでいるそうです。

矛盾の中で生き、それでも娘を希望と共に送り出した父、米山奨学生として日本人と深く関わり、日本語通訳者として生きる娘、さらに日本の文化を学びこれからの時代の希望の光となるであろう子供たち。黄さん親子3世代は、日本と韓国との過去・現在・未来象徴する存在として、日韓の関係を考える際の一つのモデルであると思いました。

さらに、1,000人以上が集う豪華な懇親会も圧巻でした。世界各国の学友会が、洗練汗の飛び散る熱いDJパフォーマンス。これらの瞬間に、学友、奨学生、そしてロータリアン、皆の情熱が高まり、興奮が広がりました。異なる文化や背景を持つ私たちが共に楽しみ、米山の絆を築く様子は、感動的かつ忘れられない体験となりました。

米山記念奨学事業が提供する機会と支援のおかげで、私は異なる国々から集まる素晴らしい学友、奨学生たちと出会い、共に学び、成長する機会を得ることができました。

この大会を通じて、奨学生たちに国際的な交流と知識共有、そして心躍る体験の場を提供し、国境を越えた友情や共通の目標に向かう情熱が育まれました。これらの感動的な瞬間は、米山記念奨学事業があったからこそです。

また、黄さんのような学友が、祖国と日本の架け橋となる存在として活躍している姿を見ることで、奨学事業の力が世界に対して、どれほど大きな変化をもたらせるかを実感しました。彼女のストーリーは、奨学事業が個人の可能性を広げ、国際的な理解と連携を促進する重要な役割を果たしていることを示しています。このような素晴らしい体験を通じて、私は米山記念奨学事業の支援が、個人だけでなく世界へポジティブな変化をもたらす力を改めて強く信じるようになりました。若い世代の成長と国際的な結びつき、そして世界平和を目指す一翼を担っていく米山記念奨学事業をますます誇りを持って推進していくことを心に誓いました。

次回2026年の台湾での米山世界大会には、地区内の多くのロータリアンと共に参加し、感動と学びを分かち合いたいと強く願っております。この素晴らしい機会を通じて、地域を超えた絆が一層深まり、共に未来を築く瞬間を心待ちにしています。



米山記念奨学委員長
渡辺郁 (甲府南 RC)

「米山学友による世界大会に参加して」

初めての米山世界大会でしたが、とにかく米山愛に溢れる二日間でした。今回参加されていた学友の皆さんは多国籍でありながらも米山の同胞として本事業を愛し、日々感謝の心を持って世界に羽ばたいているのだと実感できました。私は改めて米山事業の偉大さを再認識すると共に平和を願って立ち上がった米山記念奨学事業の神髄を見たような気がしました。思い出に残る二日間をありがとうございました。

この「米山学友による世界大会」への参加を通じて、私は大変に貴重な経験を得ることができました。学友・奨学生たちと共にその場に立ち会い、彼らの成長と努力を間近で見る機会は、感動的かつ重要なものでした。



柳場文彦 (山梨 RC)

学友会役員の声

第3回米山世界大会「再開 in 関東」に参加して来ました。今回、第1回熊本で開催された世界大会の参加数を大幅に上回る1200名での開催で、参加人数の2/3は米山学友だったこと大変驚きました。今回、渡辺委員長の提案で現役奨学生の皆様も参加することになったので、当地区から30名という大人数での参加となりました。2620地区の一体感を出すために参加者全員が学友会のポロシャツを着用して参加することになったので、その一体感が他地区からも大絶賛されていて、学友ポロシャツを制作して良かったと改めて思いました。本会議でのパネルディスカッションを通して、学友会存在の意義や絆について改めて感じさせる時間となり、晚餐会ではスリランカ学友会を含め各国の多くの学友とワイワイしながら交流することが出来ました。

今回の世界大会に参加してから新たな視点で米山ファミリーの一員で良かったと心の底から思うようになりました。次回、台湾での開催を楽しみにしながら、これからも当学友会発展のために努めて参ります。



青山チャリット会長
(静岡日本平 RC)

これまで第一回の熊本、第二回のモンゴルにも参加しました。今回は「再会 in 関東」の名の通り、多くの米山ファミリーと旧交を温めることができ、さらに沢山の新しい出会いも得て、次の台湾大会が益々楽しみです。

実行委員会メンバーとして準備作業などをお手伝いしたのも良い経験になりました。所属学友会と実行委員会とのパイプ役を務め、皆さんが円滑に参加することができたことに安堵し、今後の学友会活動にも活かしたいと思います。

大勢の仲間と過ごした素晴らしい三日間でした。



上野佳子理事
(東京臨海東 RC)

8月5日に行われた第3回米山学友による世界大会「再会 in 関東」に参加し、初めての体験で非常に有意義な時間を過ごすことができました。このイベントは学友同士、また、学友とロータリアンが親睦を深めるとともに、世界平和と国際親善への認識を新たにしながら、被災地への支援活動や地域の活性化という目的を持っています。

私は4日の前夜祭から参加し、9年ぶりに関西学友会(奨学生時代お世話になった学友会)の方々とは再会できたことを大変嬉しく思います。パネルディスカッションに出てきた話題の通り、私たち米山学友にとって、米山学友会は「ファミリー」「居場所」の存在です。時間や場所に関係なく、再会すれば一体感が生まれます。

今回のイベントの参加を通じて、自分が属している地区学友会の枠を超えて、異なるバックグラウンドを持つ学友たちと意見を交換し、情報や知識を共有することで、新たな視点や発想を得ることができました。これは自分の学びの幅を広げるだけでなく、異なる視点を持つ人たちと協力して課題に取り組む際にも役立つと感じました。

主催者や関係者の皆様には心から感謝申し上げます。2年後の「再会 in 台湾」が開催されることを期待しております。



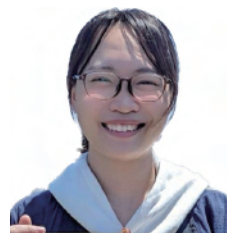
孫麗理事
(大阪なにわ RC)

先日、米山学友による世界大会が4年ぶりに開催され、幸運なことに私も参加できました。短い2日間でしたが、たくさん大切な思い出が私の心に刻まれました。

世界大会への参加は初めてで、さらに1200人近い大規模なイベントへの参加も初めてでした。当初はワクワクしながら緊張と不安の入り混じった複雑な気持ちでしたが、会場に足を踏み入れた瞬間、不安は急に消え去り、その代わりに会場全体に広がるみんなの楽しい話声と笑い声が耳に心地よく響いていました。

周囲には初対面の人が多くいましたが、なぜかすぐにその雰囲気に引き込まれました。まるで昔からの友人のように温かく迎えてくれました。これは「米山家族」という共通の結びつきがあるからこそ。異なる背景や人生を持ちながらも、「米山家族」という特別な繋がりが私たちを結びつけています。この特別な絆のおかげで、新たな友人たちと出会い、自分自身をより深く理解する機会を得ることができました。

これからも「米山家族」と共に成長し、未来に進んでいくことを楽しみにしています。



ファミ ゴック アン理事
(浜松南 RC)

今年3月に米山奨学生を卒業して米山学友会の一員となりました。米山学友としてイベントに参加するのは今回が初めてで、少し緊張していますが、国籍、肌の色を越えてたくさんの学友と交流したり意見を交換したり、新しい友達もできて、多くの新しい知識と見解を学びました。

ロータリアンの方々にも助けてもらったことがあるので、恩返しがしたくてたまらないが、今の自分何ができるのかわからなくて、ずっと困ってしています。ある学友はいつも恩返しを思わず、自分のことをしっかりして、成功してから恩返しをしても遅くないと言っていました。恩返しを急いではいけないのを知り、まず自分を強くすることが今私がすべきことです。今回の大会はとても貴重な経験だと思います。最後に今回大会を成功に開催させるために努力してくれたスタッフたちに心より感謝申し上げます。



劉雅文
(長泉 RC)

奨学生の声

米山世界大会では多くの人と知り合い、米山回転奨学金と米山同学会について多くの話をしました。彼らは同じ地域の先輩や他の地域の友人を含め、みんな米山ロータリー学友会のために集まった。これにより、ロータリーという大家族についてより深く知ることができました。つくば市の米山国際大会は本当に楽しい経験で、自分もたくさんのことを学びました。これらの学んだことも私の将来の利益になります。

今後はこのような活動に積極的に参加していきたいと思います。



姚方勃
(パワー浜松 RC)

米山奨学生となってから初めての米山学友世界大会。大学院の試験準備も色々大変だが、友達との遊ぶ時間を削って、米山の活動参加時間はゆずれたくない。今回の米山学友世界大会もそうだった。素晴らしい先輩の背中を見て、大変良い刺激を受けた。

世界大会から得たもの、感想は特に特筆したいことは三つある。

一点目は、「受人滴水之恩，当似湧泉相報」。中国の諺に一滴の水のような恩にも、湧き出る泉のような大ききでこれに報いるべしという教えがある。今回の米山学友世界大会に参加したから一番と思ったこと。「米山病を感染した」、「ロータリーはやめられない」などの声が続々聞いていた。最近大学の出願書類を書いてから、やっぱり文字は限界があると感じた時たくさんある。どんなに美しく、綺麗で書いても足りない部分まだあるかなあ…と訂正して、提出締め切りまで改正し、結局まだ満足できない。今回の大会に行かなかったら、「米山病」はそんなに強く感じられないと思う。

現場の力、視覚、聴覚、そして考えて「米山病」の本質も考えさせられた。1200人の規模を超えるぐらいの世界大会、感動、感謝、思い出はたくさん思い浮かべた。学友の方々から聞いて、共通しているところは、当初米山奨学会の支援をなくては、今の私もいなかったということだと思う。これは過言ではない。今私は2620地区の奨学生として、色々な活動に参加したり、交流したりする機会をいただき、大変光栄だと思う。引き続き頑張っていきたい!!

二点目は、自己研鑽して、自分の知識や経験を高めること。会議中に流された学友の代表ムービーは印象深かった。彼らは様々な職業に就き、自分が所属している組織においてトップリーダーとして社会に貢献している。ロータリーの中では、様々な種類の奉仕方法が存在している。職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕などが挙げられている。もちろん、奉仕は優劣がないだが、専門知識を持つ、さらに社会に貢献していくのは素晴らしいことと思う。海岸清掃、子供食堂をはじめとする奉仕活動は重要だし、物理研究者、法律家などの専門家の存在も重要である。目標に向かって、小さなことからやり始め、きっと輝かしい未来を開くことができる。

三点目は、「Respect (尊重)」であり、人には国籍、性別に区別せずに、積極的に交流する必要がある。人には何らかの組織に所属している。今回の大会では、国名と地区名を呼ばれた時に、皆さんが立ち上げて反応した姿をととても感動した。中国、ベトナム、スリランカなどの国から来た学友の方々も大勢にいた。ベトナムから来た学友の数は多かったが、2620地区のベトナムの友達は本当に凄かったと思う!ベトナム語教室もわざわざ時間を作り、基本的なベトナム語の挨拶を教えていただいた。ベトナムという国家に対してさらに興味を持つようになった。今年の世界料理パーティーを楽しみにしている!

最後に、今回の大会の参加を通じて、米山の「人を育つ」ということをより深く理解することができた。米山梅吉さんをはじめとする先輩の背中を見て、たくさん学べ、自分の知識を活かしより良い社会を作り出したい。これからも何卒よろしくお願い申し上げます。



仇英嬌
(伊東西 RC)

世界大会に参加して分かったことはロータリーアンは簡単に辞めれるけど我々は一生辞められないことを聞き米山奨学金生である私が返しに何かをこの1年間でやらないといけないと思ってたけどこの世界大会で参加して友人たちとゆっくり仲良くしていつでも返しをしていいと感じました。

この大会に参加して感じたことは私にとってロータリーは宝くじと同じだっと思いました。宝くじも当たるとして皆買うんですが実際に当たる人や諦めずに買う人は大体0.001%くらいだっと思います。この0.001%に入ることができてすごく嬉しいです。



ギミレマノズ
(甲府 RC)

米山学友による世界大会に参加して、世界を舞台で活躍している米山学友達と出会い、米山学友と米山・ロータリーの出会いの物語を知りました。また、今も米山学友として親善と平和のため、奉仕活動をやっている素晴らしさを実感できました。

今回の大会に参加し、すでに「米山病」にかかっています。今まで米山で出会った人達、将来米山で出会う人達へ、感謝の気持ちを込めて、より良い優秀な人間になり、力強くなり、将来自然に架け橋になり、恩返ししたいと思っています。



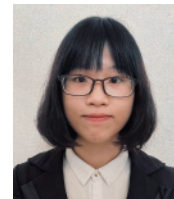
李若源
(甲府西 RC)

世界大会に参加して本当によかったと思った。なぜなら、久しぶりに色々なことを感じたからだ。モンゴルの人口は400万にもならない少ないけど20人ぐらいのモンゴル人がいるとは想像してなかった。ただ、いるわけではなくパネラーなどに参加している姿を見て感動して鳥肌が立った。また、2620地区の奨学生や皆が本当に可愛くて、優しい人ばかりでどこに行っても私のことを忘れずにいつも一緒にいて、応援してくれて涙が出るほど感動して感謝した。



ハグワスレン ノミンダリ
(甲府中央クラブ)

8月5日、6日に開催された第3回米山学友による世界大会に参加しました。大会には、中国、タイ、台湾、モンゴル、ベトナムなどの学友やロータリアン、奨学生など約1200人が集まりました。初対面の方々も多かったですが、「米山の絆」の結束力を感じ、この大会を通じて素晴らしい先輩と出会い、新しい友達もたくさん作ることができて本当に良かったです。



ヴェティタオ
(甲府南 RC)



8月5-6日に、つくばにて、ロータリー米山による世界大会「再会 in 関東」に参加させていただくことになりました。この機会に約各地区の方々、会長、カウンセラー、学友、奨学生の皆様に会えてすごく嬉しく思っております。国籍に関わらずお互いに名刺や情報などをご交換しておりました。より深く仲間良くなりました。そして、ベトナム南学友のお姉さん、お兄さんたちに接することができて、沢山お話を伺いました。また、晩餐会に美味しい食べ物を食べながら各国のネパール、中国、ベトナム、モンゴルなどそれぞれの伝統的な演奏を拝見しました。すごく素晴らしかったです。

再会 in 関東に参加することができて、人生の中忘れられない思い出じゃないかなと思います。「再会 in 関東」のイベントを完璧に開催できたことに感謝しています。また、お暑い中に参加された国内外の方々との出会いに感謝しており、貴重なご縁を頂きました。



グエンドアンチュンヒエウ
(甲府北 RC)

米山世界大会の参加は最高の経験でした!異なる国々から集まったロータリアンと学友たちと交流し、新しい文化や考えに触れることができました。みんな優しくフレンドリーで、初めて会う人ともすぐに話せる環境でした。自分の視野が広がったし、新しい親友もできました。

これからもつながりを大切にしていき、地区のみんなにもぜひ同じ素晴らしい経験をしてもらいたいです!これからもつながりを大切にしていきたいです!



ルオンティゴック
(山梨 RC)

第3回米山学友による世界大会「再会 IN 関東」に初めて参加する機会をいただきまして色々な経験が包んで、充実した学生生活を送ることができたと感じました。

そして、タイワン、中国、ベトナムと韓国の米山学友会の経験など聞き、将来日本から帰国しても先輩達のように母国でも米山学友会に所属し、世界大会などへ参加して自分の経験も皆へ紹介をできればなと考えました。または、ネパール国籍先輩達ともお話をでき、皆とお話しや相談などをし、これからみんなで協力しようと決まりlineグループもう作成しました。そして、今回の大会でロータリアン、先輩などとも様々なテーマでお話し、経験など聞かせました。つまり、今回の世界大会でこれから社会人になる私は役に立ちました。



フールビシユヌブラサド
(静岡日本平 RC)

世界大会を参加して、自分の奨学生ライフに大きな啓発を受けました。今の自分は恩を返す、社会に貢献するという思いより、一生懸命勉強して自分が優秀になったら、その時自然に恩を返していくと強く考えました。

そして、新しい家族を見つけました。同じく静岡市国際交流活動に参加し、そこで知り合った方が自分の世話クラブの奨学生でした。今回の世界大会に参加しないと、このようなご縁がわからないし、人と人を繋げていくのは学友会の魅力だと実感しました。



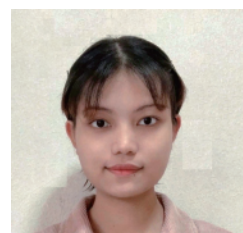
李江華
(駿河 RC)

このような大きな世界大会は初めての経験であり、違う国からたくさんの人と関わることができました。今まで体験したことがない貴重な体験をさせていただき、米山のおかげで、今までの学生時代で一番楽しい学年を過ごせました。なかなかできない機会であり、一生忘れられない思い出を作ってくれまして、本当に感謝の気持ちいっぱいです。ありがとうございました。



リンテット
(清水中央 RC)

この二日間は、ロータリアン、学友、奨学生達と仲良くして、たくさんの人と交流ができました。ロータリアンの皆様の貴重なスピーチを聴いて、米山ロータリーのことを深く理解して感謝しました。市長のスピーチは短いけど、声が大きくて凄くユニークなスピーチだったと思いました。各国の旗を掲げてパフォーマンスをしていた時、平和感を感じて嬉しい気持ちでいっぱいでした。



ジンミテツ
(浜松 RC)

今回4年ぶりの世界大会で、心から米山大家族のみんなの熱情を感じました。晩餐会でみんなが各国の歌や踊りオークションまで行われ、ノリノリでとても楽しい時間を過ごしました。優秀な先輩奨学生の方々の輝かしい経歴と姿を見て、自分の不足を感じ、これからもっと有意義な米山奨学生生活を送り、後輩の模範になるよう頑張っていきたいと思います



シュ ソウトン
(静岡西 RC)

袋井ロータリークラブ王強です、2023年8月5日の米山世界大会に参加できて至極光栄です。この大会をきっかけに、米山ファミリーの熱意がひしひしと伝わってき、新しい友達もたくさんできて楽しかったです。

大会では色々な奉仕の事跡を報道する時、私にとっても感動させました。これからはもっと日本と中国の架け橋になれるように頑張ります、卒業しても社会の発展のために力になりたいと思います。



王強
(袋井 RC)

今回の世界大会の参加で、ロータリー米山奨学金はどれほど素晴らしい人材を育ったのを非常に認識しました。

彼の事例や今の活躍を知ることで、私も更に頑張りたいという気持ちが一杯になりました。特に、世界の貧困地域で活躍している奨学生の事例を見て、感動しました。

それらの事例を通じて、国際ロータリーによる世界平和の創造が進んでいることをもう一度確かめました。一方、今回の参加を通じて、2620地区の学友と会員たちとの繋がりがより深まった気がします。将来、奨学生から学友になってもみんなとの繋がりを頑張って維持したいと思っています。



李闊
(大月 RC)

この度、第3回世界学友会「再会 in 関東」に参加させていただき、誠にありがとうございました。初めて世界学友会に参加で、ロータリー米山の奨学生としての誇りを噛みしめました。米山学友会の意義や価値観をより深く理解でき、学友とロータリーの方々と交流したことを通じて、豊かな「米山」の精神も頂きました。

日本国内の学友会との交流はもちろん、国際的なつながりを築けたことは大変嬉しく思います。初めて他の地区の学友、ロータリーの方、特にギニア人のアンバサダーとエチオピア人の学友と話せることができ、人生の豊かさが広がりました。今後とも、大会から持ち帰った「米山病」を胸に、地区学友会と世界の学友たちとの絆を大切に育んでいきたいと思ひます。この貴重な体験を胸に、成長と学びを続けていきます。どうもありがとうございました。



グエンハイリン
(藤枝 RC)

私は、ロータリークラブとの交流を深める中で、多くの学びと成長の機会を得ました。今回は、米山世界大会の参加やクラブメンバーとの聚餐の経験などを中心に、私の感悟を共有させていただきます。

先日の米山世界大会では、多くのロータリーの会員と直接交流する機会に恵まれました。異なる文化や背景を持つ方々との対話は、私の視野を更に広げてくれました。大会の議論やプレゼンテーションを通じて、日本や他国の取り組みについて深い理解を得ることができました。

また、米山ロータリーの会員の皆様との聚餐は、私にとって非常に貴重な経験でした。食事を共にしながらのカジュアルな交流は、私に新しい視点や考え方を教えてくれました。これらの経験を通じて、私は文化の違いや人々の考え方の多様性について深く理解することができました。私は、このような交流の場を持つことの大切さを痛感しました。

今後とも、ロータリーとの交流を深め、さらなる学びと成長を追求していきたいと思ひます。そして、私の日本留学の成果や経験を、更なる活動や貢献の中で発揮していきたいと考えています。心からの感謝を込めて、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

敬具



李根
(浜松志耀 RC)

